

10000時間の法則

ある新聞のコラムに石川遼選手のことがかかれていました。ゴルファーであれ芸術家であれ、練習を始めてから(子供のころから)プロとして稼げるようになるまでに、およそ10000時間の練習を積んでいるそうです。10000時間というと、1日3時間×3334日、つまり1日3時間の練習を10年間続けるという計算になります。小学生のころにゴルフの練習を始めた石川選手は、単純に計算すると大体10000時間になるというのです。人から聞いた話ですが、プロゴルファーになるには30万球以上打たなければならないそうです。球を打つ前にスイングなどをイメージしたり素振りをしたりするので、せいぜい2分に1球、つまり1時間に30打つのがやっとだろうと思います。1日3時間打って、90球。300000球÷90球≒3334日だから30万球打つには1日3時間で約10年かかる計算になります。やはり10000時間の法則に当てはまります。

この記事は、多分『天才！ 成功する人々の法則』という本からの引用だと思います(図書館にあります。訳本なので少し読み辛い)。この本には次のようなこともかかれています。『どんな分野のプロでも、不思議なことに大体10000時間練習を積んでいる。逆に、それほど上達できなかった人は、大体4000時間に終わっている。聖書の中に『豊かなものはさらに豊かになり、貧しいものはさらに奪われていく』という意味の言葉がある。プロになれる人は上達したい一心でどんどん努力を積み重ね技に磨きがかかってくる。しかし、プロになりきれない人は挫折しそうになると力を抜いてしまい、伸び悩んでしまう。そこで10000-4000=6000(時間)という差が生まれ、両者の技術には雲泥の差がついてしまう。』

授業をしてもそのような差を感じる事が度々あります。数学が好きな生徒は自分から進んで問題を解いています。苦手な生徒に限ってただ黒板を写しているだけという光景をしばしば目にします。

極論すれば、1日6時間の授業を中学・高校あわせて6年間超真面目に受け続けられれば、10000時間の法則により一流の受験生になっているはず。せめて今日からでも、超真面目に授業を受けてみましょう。

(1年1組 担任 K. T.)

週行事予定表 (2/18~3/5)

月	日	曜	行事予定	備考
2	18	木	学年末考査	8:20着席
	19	金	学年末考査	8:20着席
	20	土		
	21	日		
	22	月	学年末考査	8:20着席
	23	火	学年末考査	8:20着席
	24	水	卒業式の歌の練習 (7限)	B : 7:25着席
	25	木	国公立大前期試験	B : 7:25着席
	26	金		B : 7:25着席
	27	土	休日	
	28	日	卒業式準備・大清掃 同窓会入会式 卒業式予行	8:20着席
3	1	月	第62回卒業式	8:20着席
	2	火	代休日	
	3	水		C : 7:25着席
	4	木		C : 7:25着席
	5	金		C : 7:25着席